

ジブリパークの整備事業

参考資料 1

- ・2005年に開催された愛知万博の理念と成果を次世代に継承するため、愛・地球博記念公園内(長久手市)にスタジオジブリ作品の世界観を表現する5つのエリアを配置した“ジブリパーク”を公園施設として整備。
- ・県は事業主体としてジブリパークの整備を行い、県から都市公園法に基づく管理許可を受けた株式会社ジブリパーク(スタジオジブリと中日新聞社が共同で設立)が独立採算制で運営を行う。

I 2022年11月1日開園の3エリア

①ジブリの大倉庫 (約0.8ha)



[中央階段]

「倉庫」らしさと懐かしさを感じる和洋折衷の建築空間をイメージしており、展示室、子どもの遊び場、売店と喫茶、収蔵施設等があります。

②青春の丘 (約0.8ha)



[地球屋]

映画『耳をすませば』に登場する「地球屋」、「ロータリー広場」、映画『猫の恩返し』に登場する「猫の事務所」があります。

<ジブリパーク整備(5エリア)の概要>

- ◆整備面積 : 約7.1ha(愛・地球博記念公園全体は約200ha)
- ◆総事業費 : 約340億円
- ◆想定来場者数: 約180万人(愛・地球博記念公園全体は約280万人)
- ◆経済波及効果: 約840億円(整備時)
約480億円／年(開園後)



II 2023年度に開園した2エリア

④もののけの里 (約0.8ha) 2023年11月1日開園



[タタラ場]

映画『もののけ姫』のエミシの村とタタラ場をもとにした和風の里山的風景をイメージしており、「タタラ場(体験学習施設)」などがあります。

⑤魔女の谷 (約2.9ha) 2024年3月16日開園



[ハウルの城]

魔女が登場する作品の建物を楽しめるエリア。映画『魔女の宅急便』の「オキノ邸」、映画『ハウルの動く城』の「ハウルの城」、レストラン棟などがあります。

[サツキとメイの家]



[どんどこ堂]



映画『となりのトトロ』の「サツキとメイの家」を中心とした田園景観をイメージしており、映画の世界観がより身近に、より深く感じられ、子どもも楽しめるような遊具や散策路等があります。